

平成 2 8 年度校内研修基本方針

研究・研修担当

1 はじめに

〔校内研修の定義〕

- ・ 学校が主体となって、教育目標の実現に向け、校長の指導のもと計画的、組織的、継続的に実施する研修
- ・ 教育目標の実現を目指した、教職員の小グループによる日常業務と結びついた研修

〔校内研修の必要性〕

- ・ 学校ごとに教育課題が異なるため、学校現場に即した実践的研修が求められていること
- ・ 山積みする教育上の諸問題に対し、校外研修だけでは不十分であること。また、校外研修は、場所、時間、参加人数の制限があること
- ・ 今後、ベテラン教職員の大量退職、経験の浅い若手教員の大量採用で、実践的指導力やコミュニケーション力、チームで対応する力などがより一層求められること

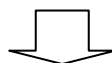
〔校内研修の意義〕

- ・ 学校の教育活動改善の原動力となること
- ・ 学校の組織力を向上させること
- ・ 学び合い、高め合うという同僚性や学校文化の形成に役立つこと

（長崎県教育センター H 2 5 . 3 「校内研修のてびき」より）

「校内研修」＝ 組織力と人間性を高める活動の基盤

（長崎県公立学校教職員研修体系要項より）



【R V - P D C A サイクルによる校内研修の推進】

（R＝調査・分析、V＝構想、P＝計画、D＝実践、C＝評価、A＝改善）

- ① R … 現状把握と課題の焦点化（強みと弱み）
- ② V … ビジョン共有（学校経営方針：育てたい生徒像、高めたい学校像）
- ③ P … 学校経営方針等の共有
（学校経営方針に基づく校内研修にかかる重点努力事項や方策等）
研究組織の編成
研究テーマ設定（学校経営方針を踏まえ、達成可能で成果が実感できるもの）
年間計画立案（学校歴への位置付け）
- ④ D … 授業研究や課題研修の実践
- ⑤ C … 評価の実施（学校評価との連動）
- ⑥ A … 改善策の検討（研修の成果と課題の整理、次年度に向けた方向性の修正等）

「つながり」で育む主体的な学びの姿を目指して

～横断・協働・連携～

キーワード・・・『つながり』『主体的な学びの姿』

『つながり』＝ 各教科のつながり「**横断**」
生徒同士のつながり「**協働**」
学校・家庭・地域のつながり「**連携**」

『主体的な学びの姿』＝「確かな学力」を求める姿。（自ら意欲的に学習に取り組む姿）

※「確かな学力」・・・基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

（基礎的・基本的な「知識や技能」、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力など」を含めた幅広い学力）

【文部科学省：現行学習指導要領についてのリーフレット、HPより】

〔研究仮説〕

各教科の中で横断的につながる学習活動や、授業や諸活動において生徒同士の協働的な学びの場が設定され、さらに学校・家庭・地域の連携のもとに学力向上に向けた取組がなされれば、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。

1. 教師が教科において横断的な学習活動を仕組めば、生徒の基礎・基本の定着が図られるとともに、思考・判断・表現の力が育成されるであろう。
2. 教師が授業や諸活動において、生徒同士を協働的に学ばせる場面を設定すれば、生徒相互の理解が深まり、学び合い、教え合う態度が育成されるであろう。
3. 学校・家庭・地域の連携のもとに学力向上に向けた取組がなされていけば、生徒が安心して生活でき、学習に集中して取り組める環境をつくることができるであろう。

以上の3点がそれぞれ具体的な実践によって達成され、相互につながり合うことによって、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。

3 研究の基本方針

(1) 職員全員の参加

- 職員がそれぞれの授業改善の取組を公開、共有して教科の横断的なつながりを図る。
- 全職員が年間1回の研究授業を計画・実施する。授業研究については原則として、授業を実施した日に行う。
- 全員参観を原則とした全体研究授業を学期に1回行う。授業研究は、授業を実施した日にワークショップ形式で行う。指導案（指導略案）の形式は原則として統一する。

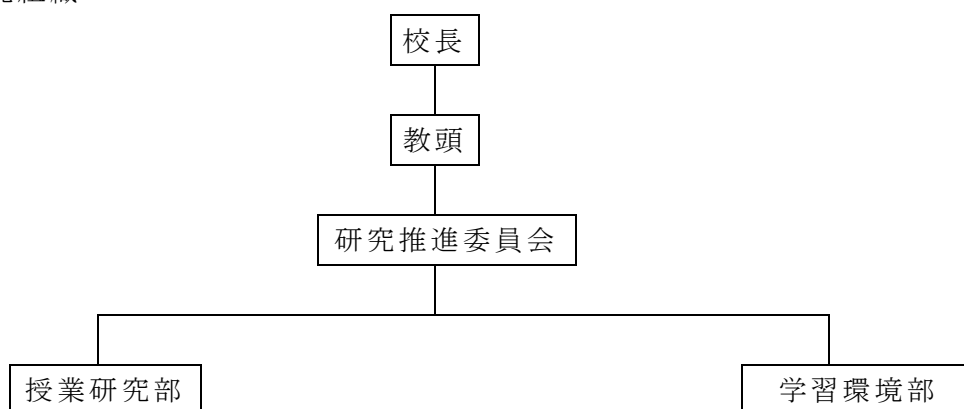
(2) 個人研究とその実践

- 各教科における基礎・基本の定着を目指した具体的方策と評価の方法を研究する。
- 生徒の学習活動の活発化を図るための取組をする。
- 授業実践記録を残す。
- 家庭学習の習慣化を図る取組をする。

(3) 本年度研修内容

- 教科・領域の研究授業の実践
- 各教科における授業改善（言語活動の充実）に関する研修
- 特別支援教育に関する研修
- カウンセリング・教育相談等、生徒理解についての研修
- 校外での研修会や出張の報告（研修の共有化）

(4) 研究組織



※ 研究推進委員会は、校長、教頭、教務、研究主任、各研究部長で構成し、各研究部における取組の方向性の検討と進捗状況の確認をする。（必要に応じて拡大することがある。）

◆授業研究部〔「言語活動の充実」を中心に据えた授業改善〕

○授業改善についての研究〔各教科〕

- ・学習の見直しを持たせる
- ・書く活動の設定…思考力・判断力・表現力の育成（考えを文章で整理する）
- ・小グループによる協働学習…学び合い、教え合いによる知識理解の伸長と
思考力・判断力・表現力の向上

○特別支援の視点にたった教科指導のあり方の研究〔教師同士〕

- ・小グループによる協働学習…学び合い、教え合いを通して理解を深める。
（知識理解、思考・判断・表現、コミュニケーション）
→確かな学力

○研究授業、全体研究授業の実践…教師同士の学び合い、教え合いにより指導力の
向上を目指す。

（指導力の向上、指導における視点の育成、同僚生の向上）

◆学習環境部

○学習規律五則の徹底

- ・アンケートの項目の精選と評価の変更
- ・アンケートの実施と分析…5月、10月（中間発表前）、2月の3回

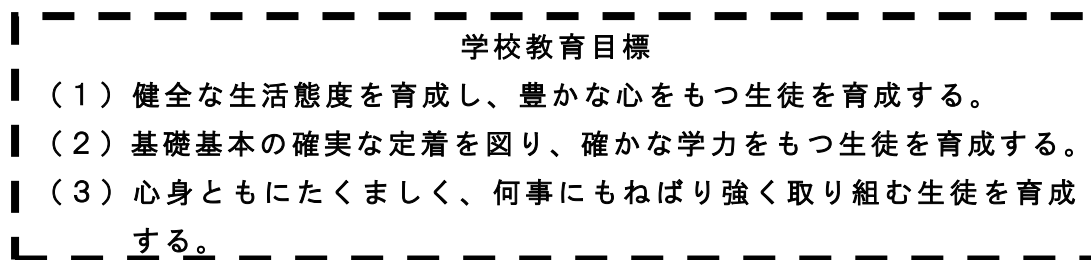
○望ましい学習集団づくり

- ・アンケートや個別面談の実施と分析
（実態を調査し、ペアやグループ活動に対する子どもたちの気持ちや意識を把握する。
- ・学級力を高める取組の研修
（校内研修等を用いて、集団力を高める取組について学んだり、職員同士で意見交換したりする）→実態を踏まえた上で、各学級や各教科で学習集団を高める取組をする。

○特別支援の視点に立った教室や授業環境の整備

- ・教室全面の掲示物の工夫（昨年度より継続）
- ・学習室の整備、特別教室の効果的な活用

4 研究構想図



「つながり」で育む主体的な学びの姿
～横断・協働・連携～



研究仮説

各教科が横断的につながる学習活動や、授業や諸活動において生徒同士の協働的な学びの場が設定され、さらに学校・家庭・地域の連携のもとに学力向上に向けた取組がなされれば、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。



授業改善

- ・ 授業改善についての研究
- ・ 特別支援の視点にたった教科指導のあり方の研究
- ・ 研究授業、全体研究授業の実践

(授業研究部)

学習環境の整備

- ・ 学習規律五則の徹底
- ・ 望ましい学習集団づくり
- ・ 特別支援の視点に立った教室や授業環境の整備

(学習環境部)

6 研究組織

